

電気通信大学創立 100 周年記念式典 式辞

平成 30(2018)年 12 月 8 日
電気通信大学長 福田 喬

本日ここに、ご来賓並びに多方面の関係者各位にご臨席いただき、電気通信大学創立 100 周年記念式典を挙げていただけますこと、誠に光栄であり、本学関係者一同の喜びとするところであります。電気通信大学を代表して、厚く御礼申し上げますとともに、日頃からの本学に対する温かい ご指導・ご支援に、心より感謝申し上げます。

また、本日は、海外からも、本学と交流協定を締結している大学や研究機関から多くの方がご列席下さいました。誠に、ありがとうございます。

電気通信大学の起源は、大正 7 年、西暦 1918 年に、時の政府の要請を受けて創設された、社団法人電信協会管理の無線電信講習所に遡ります。その役割は、枢要な情報を扱う無線電信従事者の育成・輩出にあります。講習所設立後もその人材需要はさらに増大し、加えて、熟達した無線通信士の養成には国家的管理が必要との声も高まって、1942 年に、講習所は逓信省に移管されて官立となりました。そして、官制改正等を経て第二次世界大戦後に文部省所管となった後、講習所創設から約 30 年後の 1949 年に、国立学校設置法の施行によって電気通信大学が開学、更に、2004 年の国立大学法人法の施行に伴い、国立大学法人電気通信大学として新たに発足、今に至っています。

大学としてスタートした 1949 年頃は、ノーバート・ウィーナーが「サイバネティクス」を、クロード・エルウッド・シャノンが「情報理論」を相前後して提唱し、世界の科学技術界が、情報と通信の本質によりやく目覚め始めたという時期に重なります。記録によりますと、電気通信大学初代学長の寺澤寛一学長は、いち早くこの情勢を察知し、情報・通信に関する命題を本学振興の基本方針として取り上げたとのこと。

このことに示されるように、本学は、開学時から、時代の動きを先取りするという気風を有しており、その後も、例えば、経営工学や電子計算機工学など、時代が求める分野に関する学科をいち早く配置したり、サイバー社会の到来を見越して情報システム分野の大学院を開設したりするなど、幾多の先導的改革を世に示し推進して参りました。現在では、未来の「超スマート社会」の実現に向けて、基礎的、応用的、さらには学際的な科学・技術に係る広範な分野で、力を発揮するに至っていると自負しております。

私たちは、このような先進的な歩みを踏まえつつ、高等教育研究機関としての使命を強く自覚し、これからも、「総合コミュニケーション科学」のダイナミズムの下で、時代を先取りした「知の創造拠点」であり続け、社会にその知を還元し続けます。

そのために私たちは、多元的な多様性とその要素間の相互理解・相互触発を尊重し且つ活性化させ、既存の枠組みに捉われることのない幅広い連携・協働を推進し、学生、教員、職員の自発的かつ実践的活動を促し、それらを大事する組織としてあり続けます。そして、世界から認知される大学として、持続発展可能な社会の構築に寄与する新たな価値を創造し続けるとともに、グローバルな環境下で技術や社会を先導することのできるイノベティブな人材を育成・輩出して参ります。

電気通信大学は、以上のような使命を果たすために、これからも全力を尽くすことをここに誓います。ご臨席の皆様方におかれましては、更なるご指導・ご支援・ご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

それでは、電気通信大学は、希望と決意を胸に、次の 100 年に向けて、本日、出発致します。